

第28回リサイタル

イルカ国物語

創立35周年記念委嘱オペレッタ

2000 2/27 (日) 13:00 大阪厚生年金会館芸術ホール
主催・制作 大阪メンズコーラス



OSAKA MEN'S CHORUS



菅沼潤

「未来へ向かうOMC」

2000年をきっかけにOMCは未来を見つめる様になりました。古いオペレッタを愛していたメンバーにとって今度のオリジナルは大飛躍です。そこで私は演出・振付に尚すみれを推薦しました。宝塚時代から今日まで、唯一心から信頼を置いて来た仕事仲間です。中国の傑れた演奏家をゲストに迎え、この作品が大きく皆様の心をつかむ様願いつつ、今回の企画に心から拍手を送ります。

※菅沼先生（演出家）はOMCが過去3回行ったオペレッタ公演の演出をしてくださいました。



松井 望（作曲）

■プロフィール

茨木のり子の詩のみに作曲した、トーク・コンサート『松井望×茨木のり子』で作曲活動をスタートする。そして、古典文学をはじめ、谷川俊太郎・山之口獺・川崎洋・大岡信等の作品をテキストに用いたシアター・ピース&アンビエント系の音楽を中心に、コンサート、ダンス、美術等の分野で数多くの作品を発表。

1986年、西武セゾン・グループより委嘱を受けた、モノオペラ『AMI J IMA』およびF・ザビエルの書簡をテキストにした200人のプレイヤーとパイプオルガン+コーラスのためのオラトリオ『ザビエル東遷』が、そのユニークなサウンドと壮大さで注目され、メディア等で広くとり上げられる。その成果を携えての海外ツアーでは、世界の前衛アーティストと交流、国際的な評価を受ける。

その後、ポスト・モダン派宣言、1995年、アート発信基地としての『Tokyo Local Unit』を結成、世界の第一線で活躍するプレイヤーを招き、民族楽器とコンピューター・シンセ・サウンドを核としたノン・ジャンル=ライブ・セッションのコンサート・プロデュースおよび作・編曲にあたる。1997年、先鋭ユニット《S/H》（スラッシュ）をスタートさせ、そのリーダーをつとめるとともに、多国籍アート・ユニット《Planet Cafe》を組織し、その中心メンバーとして、インターネット関連の仕事からCD-ROMをはじめとするMEDIAのコンテンツまで、活動の範囲は尽きることがない。一方、文化庁芸術祭参加作品をはじめとする舞台作品、映像作品にも、多くの音楽、企画を提供、ミュージック・コンクレート、シアターピース、サンプリングなど、常に先端の分野を走り続けている。また、1987年、北京故宫博物院・編鐘のためにつくった『HENSYO-GA』は同院に永久保存されている。

■プロフィール

本名、生年月日等すべて不明。

一説では、神戸ポートピア博などのイベントで、当時としては画期的なレーザー光線を使ったパフォーマンスを行ったとか、そのパフォーマンスという言葉自体をはじめて使ったのも彼である、とかいう噂もある。

また、日本では、コシノ・ジュンコや岡本太郎と親交があったとも言われているが、その詳細を知る人は少ない。

ただ、確かなことは……。

20代の若さで、その前衛映像によってMOMA（ニューヨーク近代美術館）の招待作家となり、映像アートのコンペでは、審査員であった作曲家の富田勲が、彼の作品の素晴らしさに対して、スタンディング・オベーションで祝福した。

バブル期の日本での数々のアート・イベントにかかわった後、突如、日本を脱出。地球上、最もエキサイティングな場所に行けば、そこに彼の姿がある。

(N.M.記)



池谷浩一（原作・脚本）



イルカ国から愛をこめて 松井 望

「僕の曲こんなにカットされるの？」スタッフ・ミーティングで叫び続けた努力のかいもなく、大作オペラ『イルカ国物語』は、2時間半に短縮しての公演です（やっぱりイルカのダンス入れたかったなあ。ああ、くやしや！。尾崎さあ〜ん、制作費もうチョットなんとかありませんか〜！）。

坂本龍一も言っていたけど、オペラってもともと“opus（作品）”の複数形で、音楽あり、ダンスあり、芝居ありの大スペクタクル。5時間くらいあってもいいんじゃないかと思う。途中の休憩でワイン飲んだり（日本酒でもウーロン茶でもいいけど）、大道芸があったり、ノド自慢大会があったりして、一日中かけて“オペラ”三昧なんて最高だと思いませんか？。

さてさて、今回出演の女性ソリスト達は、ニャンニャンとマリー以外は公募のオーディションで選ばれたミュージシャンです。予想どおり、レベルの高い歌手がワンサカ集まってくれました。その声を聴けるだけでもあなたはラッキー、来たかがあるというもの。日本の組織の害が言われていますが、アートの世界は公募がつくる！（コレ、僕の座右の銘）。世間には、とっても能力のあるアーティスト達がその出番を待っているのです。

ところで、この奇想天外な台本も公募で選ばれたものですが、作者の池谷氏は、20代の若さでMOMA（ニューヨーク近代美術館）の招待作家になって全米ツアーをやったのけた、早熟で天才肌のアーティストです。日本を脱出し、世界中に湧き出る新しい波動を求めて歩き回る神出鬼没の池谷氏、数日前のカトマンズからのE-mailでも「オペラは必ず聴きに行く！」と言ってきました。信義にあつい彼のことですから、ヒョットするとこの文章を読んでいるあなたの横に、何くわぬ顔をして座っているかもしれません。ニヤッと笑みをうかべて二日酔いで疲れたネズミ顔の（若い頃はハンサムだった）歯のない中年男を会場で見つけたら、間違いなくその人が彼です。

このオペラのテーマは『ボーダーラインを越える小さな勇気』です。我々それぞれの心の中にある『国境』に気づいて、それを越えていくのは簡単なことではなさそうですが……。しかし、そんなことなどまったく意に介さないかのように、今日も、明日も、そしてその後も、地球は回り続けます。

どうぞ、このオペラをお楽しみ下さい。そして、あなたの感じたままを僕に伝えて下さい。そこから、また新しい『オペラ』が生まれ続ける、と確信しています。

★ ゲストの紹介 ★



指揮 森香織

大阪音楽大学ピアノ科を経て、作曲科卒業。昨年、同大学指揮専攻科修了。在学中より選抜学生オペラをはじめとして、ザ・カレッジオペラハウス、関西歌劇団、喜歌劇楽友協会、横濱芸術劇場、シテリオペラなどの公演にアシスタントコンダクターとして携わる。また、学生オーケストラ、シテリオケストラの指揮・指導など、管弦楽の分野においても積極的に関与している。



演出 高可みれ

昭和43年「マイ・アイドル」で宝塚初舞台。男役として活躍。昭和60年、雪組の副組長として退団。その後振付家として再出発。「風と共に去りぬ」「ベルサイユのばら」等数多くの作品を手掛ける。宝塚音楽学校・大阪音楽大学大学院オペラ科講師。尚すみれジャズダンススタジオ主宰。



合唱指揮 阪上和夫

大阪音楽大学声楽科卒業。伊藤富次郎氏、故木下武久氏、G.モレリ氏他に師事。「お蝶夫人」のドンカント、「リゴレット」のマントパ公爵等数多くのオペラに出演。大阪音楽大学教授。関西歌劇団理事。



二胡 菅達華

昭和49年北京中央音楽学院に入学。安知昉氏、柳玉松氏に師事。小澤征爾氏が中国訪問の際、彼女の演奏する「二泉映月」に感動してアメリカに招いた。ボストン交響楽団やサンフランシスコ交響楽団との共演を実現する。昭和61年中国文化部より国家一級演奏家の認可を受ける。その後もベルリンフィルの定期公演に出演している。



古箏 伍芳

9歳より古箏の第一人者、王昌元氏より手ほどきを受ける。平成2年上海音楽学校を首席で卒業して来日。平成5年第1回国際室内楽コンクールフェスタ部門で決勝入選。平成7年震災後のチャリティーコンサートに積極的に参加。平成8年立命館大学卒業後、東芝EMIよりメジャーデビュー。3枚のアルバムをリリースする。



ソリー 高丸真理

ある時は関西歌劇団のプリマドンナ。ある時はムジークシュレマリノの学園長。ある時は大阪シンフォニー協会 営業課長。ある時は二十歳の息子の母。またある時はブラジル、ロンドリーナ 名誉大使。またまたある時は尼崎市合唱団指導員。またまたまたある時は昭和56年度文化庁研修員。そして本日現すその実態は、お・か・ま。



ニヤンニヤン 片桐仁美

大阪音楽大学卒業。ウィーン国立音楽大学卒業後、ウィーン国立歌劇場でヨーロッパデビュー。平成2年にはバイロイト音楽祭のソリストに抜擢される。バイロイトでのレヴアイン、シノボリ、パレンボイムとの共演をきっかけに、メトロポリタン歌劇場、シカゴ交響楽団、ベルリン・ドイツオペラに出演。平成9年に帰国。オペラやコンサートに多く出演している。大阪音楽大学講師、関西二期会会員。



ソリー 石橋栄実

大阪音楽大学声楽科卒業。同専攻科修了。平成10年「ヘンゼルとグレーテル」のグレーテル役でオペラデビュー。この時の好演を認められドイツ・ケムニッツ歌劇場に同役で招聘出演。その後ザ・カレッジオペラハウス公演「フィガロの結婚」のズザンナ役、「アルバート・ヘリング」のエミー役で出演。堺シテリオペラ会員。夕陽丘高校音楽科講師。



タアタ 越智千亜紀

武庫川女子大学声楽科卒業。同専攻科修了。畑儀文、田原祥一郎、上山敦子の各氏に師事。「ディドとエネアス」の精霊、「蝶々夫人」の従姉妹、「ナイチンゲール」の死神などに出演。平成11年第12回和歌山音楽コンクール二位（一位なし）。堺シテリオペラ会員。グループ・アウローラ所属。



少年 前野仁美

大阪音楽大学声楽科卒業。上木惇氏に師事。関西歌劇団員。昨年は「魔笛」にダーマ役にて出演し合唱出演のOMCと共演。



少女 馬場恵子

大阪音楽大学声楽科卒業。田原祥一郎、福島慶子、マリエッラ・アダーニ、ダンテ・マツォーラ各氏に師事。トルトーナ国際音楽コンクール3位。平成3年から6年までイタリア・ミラノへ留学。「フルキユレ」のヘルムヴィーゲ、「カルメン」のフラスキータなどに出演。関西二期会、神戸市音楽家協会、堺シテリオペラ各会員。



天愛 東尾聡子

大阪音楽大学声楽科卒業。柿木功氏、松下悦子氏に師事。関西歌劇団員。



天愛 内藤里美

西宮高校音楽科卒業。門田泰子、田原祥一郎の各氏に師事。兵庫県高等学校独唱独奏コンクール金賞。大阪音楽大学声楽科在学中。



四方砂織 岡本佐紀子

コレパティール：岡本佐紀子
昭和62年よりOMCと共に生きる傍ら、関西歌劇団、ザ・カレッジオペラハウスにてオペラ伴奏者としての研鑽を積む。平成10年9月から1年間、文化庁在外研修員としてローマに留学。ローマ歌劇場マエストロ・コッラボラトリー、ステイーヴァン・ローチ氏に師事。またカタルディ・タッソー二氏のアシスタントも務め、平成11年9月帰国。今後の人生を再びOMCと共に生きる決意を新たに、「イルカ国物語」に取り組む。

練習ピアノ・音響：四方砂織
大阪音楽大学卒業。川井田潤一氏に師事。吹田市新入演奏会出演。「個性的でユーモラスな四方音楽教室」主宰。合唱、管弦打等の伴奏ピアニストとして活躍している。

♪ オーケストラ：イルカ国祝祭管弦楽団 ♪



第1ヴァイオリン：林泉
コントラバス：南出信一
トランペット：菅沼奏一

第2ヴァイオリン：吉川隼
フルート：坂尾和美
パーカッション：越田早絵子

ヴィオラ：小倉幸子
クラリネット：小川哲生
ピアノ：岡本佐紀子



チェロ：山岸孝教
ホルン：伏見浩子

★ スタッフの紹介 ★



進行 7タル



小道具 湯谷詞子



進行補 大石彩 (左)
村松裕子 (右)



夜装 南かおり (左)
長谷川一平 (中)
谷田知子 (右)



プログラム 互藤智恵子 (左)
(キャプテン) (中)
理 (R i) (右)

* OMCメンバーの紹介 *



ポール 安藤邦昭



将校 有田仁一



チュウチュウ 芦田貴雄



アナウンサー 粟津重光



客 藤井章雄



ジョージ 藤川雄紀



ジョン 後藤恵一



将校 堀清



将校 石津佳彰



司祭 岩間克昭



バーテン 地主光太郎



司祭 鎌田昌彦



将校 加藤克雄



将校 川合恭



将校 北場栄和



司祭 小林協



客 近藤恭



客 黒田武



将校 桑田明和



司祭 松岡康生



客 森山伸一



客 村川真人



司祭 村松繁紀



将軍 中西純三



大司教 尾崎公昭



将校 佐竹広吉



バーテン 左手豊文



部隊長 高木武史



モハメット 高橋佳己



客 田中龍一郎



司祭 豊田千之



将校 宇野健一



司祭 安井直人



司祭 米岡泰



ヤマモト 厨子雅哉

★イルカ国物語について★

ご自宅に帰ってじっくり思い返してください。

時は、陸地のすべてが水没し、生きとし生けるもの全てが海の底に生活の舞台を移した〇〇世紀。「伝説と予言の書」をもち、宗教と規律が支配する「イルカ知本主義共和国（通称：イルカ国）」と、イルカ以外の海の生物と新魚民で構成された混合国家、「甲殻・魚貝類合衆国（通称：魚貝国）」（自由だが、失業率45%）の二国が、不可侵の国境をへたてて併立するなか、イルカ国の少女ユリが国境線を越えて合衆国に入り、そこでネズミ魚の少年チュウチュウ（実はミッキーマウスの末裔）と恋におちるのです。（作者）



【登場人物】

★ユリ

イルカ国の大聖堂付聖歌隊に属する純真無垢という言葉がぴったりな美少女。未来を託された大切な存在でもある。聡明で強い意志と勇気をもつ。ある日、未来を予見する何かに導かれて冒険を始める。

★チュウチュウ

魚貝国の街の使い走り。子だくさんの貧乏人の子として生まれ、小さいときから働きづめ。ちょっと気弱だが純情で誰からも好かれる。育ちも性格もまったく対称的なヒロインと運命的な出会いをする。

★ジョージ

魚貝国の国境警備隊兵士。国境警備とはいえ緊張感のない毎日の任務にヒマをもてあまして。ポールとは毎日顔を合わせているだけあって仲よし。軍規がゆるい分、ポールに比べちょっとお気楽？

★ポール

イルカ国の国境警備隊兵士。仲のよい魚貝国側のジョージと同様に毎日の任務に退屈している。軍規のきびしいイルカ国兵士であるがゆえに上官の命令がいつも気になるが、魚貝国で暮らすうちに……

★ニャンニャン

魚貝国の居酒屋「どん底」のおかみ。飲み屋という商売と常連客のバカさ加減に少々うんざり気味。客を客とも思わない振る舞いにもかかわらず客からは頼られる存在。本当はお人好しで大の世話好き。

★モハメッド

祖先はラクダだったという「どん底」の店員。常連客とはすっかり顔なじみ。女将さんには怒られ通してどうしても頭があがらないが、彼女の本当のやさしさを知っているよき理解者。とても信心深い。

★居酒屋「どん底」の常連客

ちょっとたよりない兵士のジョンとヤマモト、紅一点のタアタなど、安酒を飲みつつ酔っ払っては女将さんを相手にグチばかりのなじみ客たち。とはいえ根は明るく、よそ者にもあたたかい庶民である。

★マリ

イルカ国のバー「ドルフィン」のママ。将軍がもっかのパトロンであるが、若くてハンサムな男も大好き。美しい容姿とちょっとあぶないお色気で若い兵士たちには人気がある。実は「おかま」である。

★大司教

イルカ国の守り神「海の聖母」に仕えるイルカ国宗教界の長老。権力者である一方、誰もが尊敬する人格者でもある。少子化の進んだイルカ国の未来と将軍の野望を憂い、二つの海の世界の統一を願う。

★司祭たち

大司教のもと、「海の聖母」を篤く信仰する。宗教が支配するイルカ国では第1位の階級であるが、たまには人込みにまぎれ、酒場にくりだす生臭な面も。第2階級の軍人たちとは全くソリが合わない。

★イルカ国の将軍

平和な世の中にあきあきしている。軍人より高位に属する司祭たち（とくに大司教）に対する反感をかくそうともせず、機会があれば大司教と司祭に代わってイルカ国を支配したいと考えている野心家。

★イルカ国軍隊の将校と兵士たち

将軍に率いられたイルカ国の精鋭部隊。とはいえ、実戦から長年遠ざかっているため臆病な者、ちょっとテンポの合わない者など、なかにはユニークな兵士も。なぜか関西弁をしゃべる将校が一人いる。

★コロスたち

正体不明の黒衣。ナレーターやバックコーラスを務めたり、ときに背景の一部になったり、飲み屋の客に紛れ込んだりや変幻自在。が、本当は影ながらヒロインたちを応援する心やさしき男たちである。

◆最初の風景◆

幕があがると、海中のイメージがあらわれる。その間をイルカが自由に泳ぎ回っている。そこへ黒衣の男たち（コロス）が現れ、この物語の序章ともいべきイルカ国の伝説について歌い、そして語り始める。

「イルカ国に伝わる『伝説と予言の書』には、古代、海の上に陸地が広がり、ありとあらゆる生き物が空と海の間で暮らしていたと記されている。しかし、ホモ・サピエンスなる生き物が傍若無人の行いの末、神の怒りに触れすべての陸地が海に沈んでしまい、この星は海だけの星になった」

「イルカ国なら誰でも知っているこの『伝説と予言の書』にある未来には、『いつの日かこの海の生き物の中に光り輝く翼をもつ者が産まれたとき、すべての生き物が自分のなりたい姿に生まれ変わり、この地球に再び陸地が現れるであろう』とも記されている」

こうしてイルカ国と魚貝国の交互に場面を変え、話は進んでいく。

◆魚貝国の安酒場「どん底」の風景◆

きつぷのいい女将さんのニャンニャンとその店員であるモハメッドと常連客のにぎやかなやり取り。

◆両国の国境の風景◆

ヒマをもてあまし居眠りを始めたイルカ国側の警備隊兵士・ポールと魚貝国側の警備隊兵士・ジョージ。突然かわいい少女が眠っている2人の脇をすりぬけ、簡単に国境を越える。その後やってきたポールの上官と兵士が、大事な少女ユリが行方不明になったことを告げ、必ずさがしだすように命令する。ポールとジョージはユリをさがすために制服を取り替え、互いの国に向う。

◆イルカ国の大聖堂の風景◆

聖歌隊ならびに司祭と大司教および軍人と将軍が勢ぞろいしている。将軍は、ユリの失踪が大司教のせいだと暗に非難し、それに反発する司祭たちと兵士たちとに果てない論争が続く。将軍は、敵国がユリを拉致したと見え「ユリが見つからねば戦争を」とほめかして退場する。残った大司教と司祭や聖歌隊の少年少女は平和を願いしばし祈る。

◆イルカ国のバー「ドルフィン」の風景◆

バーのあるマリのコケティッシュな歌に喜ぶ客の兵士たち。そこにもたらされた臨戦体制開始の通達に高揚した兵士は国歌を歌いながら退場。残った将軍がマリに戦争を起こすという秘密を打ち明けて帰る。ちょうど現れたジョージにマリはうっかり秘密を洩らしてしまう。

◆魚貝国の居酒屋「どん底」とその周囲の風景◆

走り使いのチュウチュウに案内された「どん底」でユリを見つけれないことにすっかり弱気になっているポール。一緒に落ち込んだチュウチュウの前に突然美少女が現れる。

◆チュウチュウの下宿での風景◆

チュウチュウはこれまでのいきさつを下宿に連れて帰ったユリに説明する。2人は互いを思いやり、やがて愛情に変わる。そこに血相を変え、ポールを探しにジョージが飛び込んでくる。二人を見て微笑ましく思うが、少女がユリとわかって頭をかかえこむ。

◆居酒屋「どん底」の風景◆

舞台の一方にイルカ国の軍隊の不気味なシルエットが現れ、何やら不穏な雰囲気。一方、魚貝国の「どん底」でもラジオを聞いた客たちが騒ぎ出す。そこに居たポールは自分がイルカ国の者であること、失踪した少女ユリをさがしに来ていること、そのために戦争が起きていることを皆に告げた。戻って来たジョージはユリとチュウチュウが偶然にも恋仲であることを伝えると、皆は驚く。そこへ、当の二人が現れる。二人を祝福する客たち。しかし、ポールとジョージは戦争のことを考え浮かない表情。事情を察したユリは、戦争を止めようとする客たちを制止しようとする。二人の行く末を心配する客たちの制止を振り切って、ユリは戦場に向かう……



♪ 練習風景 ♪



前回リサイタルからのあゆみ

1998年

12月 第27回リサイタル

クレオ大阪北ホール

1999年

1月 第27回出帆式 (OMCの総会)

スパワールド

2月 関西歌劇団「地獄変」出演

メイシアター

3月 関西フィル「ザ・プーランク」出演

ザ・シンフォニーホール

6月 関西歌劇団「魔笛」出演

アルカイクホール

7月 新宮演奏旅行

新宮職業訓練センター

7月 第35回OMC夏のバカンス

樺付近のOMCビーチ

10月 「イルカ国物語」女声ソリストオーディション

2000年

2月 第28回リサイタル

厚生年金会館芸術ホール

★キャプテンあいさつ

二千年を通り越して早二ヶ月が経ちました。カウントダウンの時はハラハラしましたが、明けてしまうと「ご飯よ一け炊いてしても、餅もあるのにどないしょ」とお嘆きのご家庭も多かったと存じます。OMCは創立35年、ミレニアムには及びませんが一つの節目を迎えました。そこで今回は一線を越える演目をやろうと意気込んでいます。演目のテーマはずばり「境界」です。「誰も越えられない境界を名もない小さき者が越えていく」といったストーリーです。少ない努力でいかにカッコ良く目立つかを追求するOMCメンバーには不似合いです、成りきって演じてみせましょう。

今の世の中、冷戦が終わっていても民族紛争が絶えません。こんな時こそ月光仮面と仮面ライダーを足して百倍した様なスーパー激ヒーローに何とかしてもらいたいものですが、期待薄です。過去も未来も「世の中がOKだから私もOK」といった筋書きは無理な様です。ここは一つ「私も貴方もOKなので世の中もOK」といった順番にしたいものです。名もない小さき者の勇気が大切です。「私は人類を愛し世界を愛しています。でも隣のあいつは大嫌い」では困ります。21世紀を展望するOMCは、世界平和を目指してこの公演をお届けします。

今日の公演をご覧になって「あんなに面白くて世のためになるなら、試しにやってみよう」という方のご参加を募っております。お気軽にお出で下さいませ。5月にビッグな催しがありますので、是非ご一緒しましょう。

練習 毎週月曜 19:00~20:45
梅田東生涯学習ルーム

月会費 3,000円ポッキリ
学生は1,000円ポッキリ

問合せ 075-982-4096 (有田)

日韓男声合唱交歓演奏会
平成12年5月20日(土)
17:00開演

尼崎アルカイクホール
韓国男声合唱団
東京リーダーターフェル1925
大阪メンズコーラス